

第3回ユーザー懇談会(上)

NPO法人全国木材資源リサイクル協会連合会(彦坂武功理事長)は10月22日、第3回ユーザー懇談会を都内で開催した。懇談会には各協会理事やユーザー、オブザーバーとして経済産業省、国土交通省、林野庁らが参加。第1部マテリアル部会、第2部サーマル部会で行われ、木くずチップの需給動向について意見を交わした。本紙では2週にわたり各部会の概要を紹介する。

「解体チップの入手が困難な状況で一部パージン材も利用。地場調達でCO₂削減、コスト低減を図っている。また場内で発生した古紙も原料に利用している。間伐材は現状コストが合わないが各方面の協力を得て進めていかなければいけない」

「ユーザーも生産者も地球温暖化防止を目標にする必要がある。算定オプシオンでは蓄積変化法を採用してもいい」

「木質ボードは海外比率が高い。国産材の活用と炭素固定化のメリットを合わせ、マテ

「燃料チップ価格が跳ね上がっており、マテリアル価格との逆転現象が一部みられる(中・四国・片岡重治会長)。

「燃料チップ価格が跳ね上がっており、マテリアル価格との逆転現象が一部みられる(中・四国・片岡重治会長)。

優位性確保が課題

マテリアル部会



第1部マテリアル部会には、日本繊維板工業会、イワクラ、日本ノボパン工業、永大産業、太平工業、高萩大建工業、王子製紙春日井工場が出席した

「今後のマテリアル維持について林地残材を原料、解体材を燃料に利用する方向や輸入材の利用も含め検討の必要がある。また異物除去が今後の課題(東海・山口昭彦会長)。

「炭素固定などマテリアルの優位性についてアピールしてもらいたい。未曽有の危機にについては業界全体でチップを取り戻す努力が必要。林地残材についてもユーザー、生産者双方で訴えなければならぬ」(近畿・谷正剛会長)。

「自動車専用道路の整備があり前年比30%増となったが総発生量は減っている。価格は下がり出荷価格は上昇している(中・四国協会)。

「我々は産廃処理業のため、処分費下落の影響が大きい。ユーザーの一本釣りがなければこれほど材不足にならないと流れないのが現状(九州環境ネットワーク・河野秀彦木材部会長)。

「ユーザーも生産者も地球温暖化防止を目標にする必要がある。算定オプシオンでは蓄積変化法を採用してもいい」

「木質ボードは海外比率が高い。国産材の活用と炭素固定化のメリットを合わせ、マテ

「解体チップの入手が困難な状況で一部パージン材も利用。地場調達でCO₂削減、コスト低減を図っている。また場内で発生した古紙も原料に利用している。間伐材は現状コストが合わないが各方面の協力を得て進めていかなければいけない」

「サーマル・マテリアルの協力を得て進めていかなければいけない」

「ユーザーも生産者も地球温暖化防止を目標にする必要がある。算定オプシオンでは蓄積変化法を採用してもいい」

「木質ボードは海外比率が高い。国産材の活用と炭素固定化のメリットを合わせ、マテ

「解体チップの入手が困難な状況で一部パージン材も利用。地場調達でCO₂削減、コスト低減を図っている。また場内で発生した古紙も原料に利用している。間伐材は現状コストが合わないが各方面の協力を得て進めていかなければいけない」

「サーマル利用の価格上昇が著しい。ボード会社からのヒアリングではマテリアルの製品価格が上げられず価

「燃料チップ価格が跳ね上がっており、マテリアル価格との逆転現象が一部みられる(中・四国・片岡重治会長)。

「ユーザーも生産者も地球温暖化防止を目標にする必要がある。算定オプシオンでは蓄積変化法を採用してもいい」

「木質ボードは海外比率が高い。国産材の活用と炭素固定化のメリットを合わせ、マテ

「解体チップの入手が困難な状況で一部パージン材も利用。地場調達でCO₂削減、コスト低減を図っている。また場内で発生した古紙も原料に利用している。間伐材は現状コストが合わないが各方面の協力を得て進めていかなければいけない」

第3回ユーザー懇談会(下)

NPO法人全国木材資源リサイクル協会連合会(彦坂武功理事長)は10月22日、最近の木くずチップ需給動向などについて意見交換を行うユーザー懇談会の第3回会合を開催した。先週に引き続き、サマル部会の内容について紹介する。

日本製紙原材料本部・井澤佳昭燃料部長はあいさつで「世界的な景気低迷のなか、住宅着工数の減少に伴う製材所の生産減少などもありチップは不足している。需要面では今年だけでポイラー11台が竣工し、昨年比140万ト増。ペレットや敷料の需要もあり厳しい状況は続く。現時点ではポイラーのトラブルもあり材不足は思ったより深刻ではないが、年末にかけて正念場」と語った。

続いてユーザー各社の報告が行われた。「木くずはパーク、生

木を35%取り込むが、含水率が高いため搬送系のトラブル、保管による発熱などがある。ポイラーの安定操業も課題。今後はさらに生木や林地残材の利用が必要。購入価格は上昇しているが、原油価格とともに石炭価格も徐々に下がっている。チップの上昇が続くと設備投資計画の効果が出ない」

「木くず、RPP、廃タイヤを含めて品質は低下しているが、対応できるような工場の設定を変更した。燃料は現在のところ集まっている。他社より安く買う意識はない。廃棄物の処理費用は下落の途、業界が姿を変えていく必要がある。林地残材は民間でマテリアル・サマル利用していくことが必要」

「05年当初は燃料が豊富にあったが近郊にバイオマスポイラーが立ち状況が一変。建築基準法改正の影響もある必要かもしれない

脱解体材が課題に サマル部会

り現在は解体材55%、伐採材45%にシフトしている。(生木は含水率、土砂分が多く搬送システムの摩耗、定期補修

が、廃材不足、チップ価格の高騰は避けられない。全ユーザーが安定操業できるため国の補助やRPSの義務量増加が必要。生木はポイラーの対策を行って、林地残材を燃料として利用できる仕組みをお願したい」

協会、代替燃料を提案

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」



第3回サマル部会には、日本製紙、バイオパワー勝田、ファーストエスコ、住友大阪セメント、いわき大王製紙が出席した

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」